

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	短詩五篇
Author(s)	岩下, 勝太郎
Citation	龍南, 199: 46-48
Issue date	1926-11-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8870
Right	

短詩五篇（岩下）

短詩五篇

（哭）

岩下勝太郎

1. 秋の朝

早秋の朝は

露草である

味噌汁の香なつかしく

麥茶をすするにふさはしい

なべて物靜かに鷹揚に

葉鶏頭の

目にしみつく時である

2. 秋の風景

何と云ふ輕快な風景畫だらう

あの光の柔かみふくらみはどうだ

彼處に小高い丘に

つつましく佇んでゐる樹々の物腰の

何と云ふ生々しさだらう
滑らかなろ、うんのゆらぎは
少女の初髪のもそれだ
それは實にかわゆらしく
目の中に溶けこみそうである

3. 夜

秋の夜は
昆虫のしめつばい溜息に
しつとり濡れてゐる。

4. 酔

ひきかえるの様にふくらんだ感じ
理性は赤い舌を出して笑つてゐる
思索は夢のやうに

けぶり
ふくらむ

5. からたちの實

げずの實の甘い香よ

短詩五篇(岩下)

短詩五篇（岩下）

その色は少年の頬です
まんまるな小さい

幻の球よ

うら若い思出の

夢の様にまつはる

小さい情感のかたまりよ

そのすつばい味は少女の唇です